

みんなで考えまい!

蒲郡のまちづくり

～都市計画マスタープラン～



みかん仙人 すなメリー

形原地区って住む人が増えてるけど、住んでる人はどう思ってるのかな?

ほうだのん、春日浦や双太山なんかで住んどる人が増えておるようじゃがな、よそへ働きに行っている人が多いようじゃ。こん地区は駅から遠いで、電車を利用しに

くいと思つとる人が6割以上と、市内で最も多いんじゃよ。しかも、旧市街地がようやく残つとるもんで、救急車も入れん狭い道が多いで、道が歩きにくいとか車が走りにくいといった意見が目立つんじやな。ほんでも、商店街が頑張つとるし、買い物のは良いと

言う人が7割を超えとつたぞん。
住民会議でも道路の不満が多かつた西浦は?

「西浦は救急車が入れる道があんまりないのがまちの特徴だ」と住民会議でも言つとつたが、道路に対する不満は市内でいっとうじゃ。特に「道路の走りやすさ」じゃ、なんと86%の人が走りにくいと答えとるし、項目別にみても一番不満に思つとる人が多いんじや。ほんために、

交通事故に対する心配も高いんじやよ。ほかにも、下水や公園の不満も高く、市内7地区の中でも、くらしの環境に満足しとる人が一番少ないんじや。じゃが、豊かな自然を活かして、安気に暮らせる安全なまちをつくっていけるといいのん。
こん次は、市に優先的に取り組んで欲しいことを聞いた結果を報告するでん。

計画開発課 ☎66◆1142



水族館



学芸員 小林龍二

「最近の若いやつは…」が飼いやすい。

私たち水族館の職員が、餌の調達や生き物の採集に、市内を回ると高校生たちをよく見かけます。彼らを観察して面白いのは服装や行動です。私が高校生だった7年前より

グリーンと進化しています。先生たちは注意に追われて大変そうですが、高校生たちは、先生に怒られない範囲内で自分をアピールする術を真剣に考えています。
ヒトに限らず、動物で新しいことをするのは、必ず若者だそうですね。初めて温泉に

入ったサルも、水槽から出て散歩するペンギンも若者だったのです。それが今、それぞれの生き物の世界で文化となつて定着したのです。
こうした状況は、水族館でも例外ではありません。育てやすいのは断然若い魚です。若い魚は、水槽という限られた空間に確実に適応していきます。好奇心旺盛で、私たちを恐れず、顔を見ると寄ってきます。また、水族館が用意したエサにも興味を示し、早

い段階で餌付きます。逆に年をとつた魚は臆病で、いつまでもたつても岩の陰から出て来なかつたり、かたくなに、こちらが用意した餌を信用せず、食べません。そのため、やせ細り、ついには死んでしまふこともあります。
ヒトも動物も何か新しいことに興味を持つたり、どんな小さなことにでもチャレンジしつづけることが、若さを保つ秘けつかもしれませんね。

竹島水族館 ☎68◆2059